

デジタルカメラの肝



たくき よしみつ

4

スローシンクロで暗い背景を写し込む

最近のデジカメには必ず「シーンモード」という、状況に合わせて露出や色味（いろみ）などを決めてくれる機能があります。その中に、人物の後ろに星や月が描いてあるマークがあるはずです。

これはスローシンクロといって、通常のフラッシュ撮影よりシャッター速度を遅くして、フラッシュの光が届かない背景部分も明るく写し込むというモード。

若い女性の後ろにイルミネーションが写っている写真などが例としてよく使われますが、私にはモデルになってくれる若い女性がいないので、夜の公園で会ったボルゾイにモデルになってもらいました。

背景にもわっと写り込んでいるのはマンションの窓明かりですが、背景がまっ暗にならず、雰囲気が出ました。



NIKON D70+ニッコール85mm/F1.8（35mmフィルム用単焦点レンズ）

1/13 秒、F1.8

露出補正 -2/3

ホワイトバランス 曇りモード

フラッシュ強制発光（スローシンクロモード）

※D70の85mmは127mm相当

シャガんで撮る手間を惜しむな

以前、「御田植祭」（天皇家への献上米を植える儀式）の写真に掲載しましたが、あの献上米農家に指名された秋元美誉さんの田圃（福島県川内村）で、先日、無事、稲刈りが行われました。

村の人たちに混じり、田植えのときと同じ紺緋の着物姿で、お孫さんたちが稲刈りを手伝っているところです。

田植えも稲刈りも、終始下を向いて行う作業ですから、表情を写すのは大変です。

この写真は、私自身も田圃の中に入り、地面ギリギリまでシャガみ込んで撮りました。おかげでいい表情が撮れました。

シャガんで撮るだけでいい写真になるのに、漫然と立ったまま撮っていませんか？ 相手に合わせて、縦に横に、自分が動かなければダメですよ。

写真1：



写真2：



写真 1 :

NIKON D70 + タムロン 18-250mm / F3.5-6.3

1/400 秒、F6.3 露出補正 -1/3

42.00 mm (63 mm相当)

写真 2 :

同、1/500秒、F6.3、58mm (87mm相当)

露出補正 -1/3

檻や金網の向こうの動物を撮るには

カンムリシロムクという、インドネシア・バリ島に棲息する鳥です。森林伐採や乱獲で絶滅寸前となり、現在、世界中の動物園で繁殖させているそうです。

さて、この写真はジャワまで行って撮ってきたわけではなく、動物園（横浜市のズーラシア）で撮りました。つまり、手前には金網があります。

金網や檻の向こう側の動物を撮るには、可能な限り金網にカメラをつけて、できれば網に押しつけて撮ることです。網とレンズの間が空いていればいるほど、網や格子がはっきりと写ってしまいます。

この写真は、金網にレンズを押しつけることはできませんでしたが、極力近づけて、望遠で撮りました。手前に網があるとは思えませんね。



NIKON D70+タムロン18-250mm/F3.5-6.3

1/60 秒、F6.3

露出補正 -1/3

250.00 mm (375mm相当)

画像ソフトで遊ぶのも一つの楽しみ方

今週はちょっと趣向を変えてみました。

動物園で撮ったオランウータン、フローリングの床の上に置いたノートパソコン、そして我が家の部屋の窓、という3枚の写真を合成した「作品」です。

画像ソフトを使い慣れてくると、写真画像を修整・補整するだけでなく、積極的に遊んでみたくなります。画像の一部を切り抜いたり、貼り付けたり、境界線を目立たなくさせたりといった技術を少しずつ身につけていけば、そのうち凝った合成もできるようになります。これもデジカメ写真ならではの楽しみ方ですね。

いきなりプロ並みの合成は難しいですが、遊び感覚で始めていき、年賀状などに使ってみてはいかがでしょうか。

元画像になったオランウータンの写真を一緒にのせておきます。手前の邪魔なロープを消したり、体毛の色を派手にしたりといったこともしています。

ちなみにこの合成写真は、拙著『新・ワードを捨ててエディタを使おう』（SCC）の表紙にも使いました。

●合成した写真↓



●元の写真↓



起動時間が短いことは大切なポイント

家の外で作業をしていたときに遭遇したシーンをポケットデジカメで撮りました。

こういう一瞬を撮るのは大変です。カメラの電源を入れ、シャッターが押せる状態になったときには通り過ぎていくかもしれません。

私が長い間愛用していたSONYのDSC-F707（2001年10月発売。当時の実売価格は10万円以上）というデジカメのカタログには「電源ONから約2秒で起動。シャッターチャンス逃さない高速起動を実現」とうたっていました。この時代には「2秒」は高速起動だったわけですね。

今では安いポケットデジカメでも起動時間1秒以下は普通です。

古いデジカメをお使いのかたは、売り場で最新機種に触ってみてください。劇的進化を体感できます。



PENTAX Optio X

1/100秒、F3.9、12.20 mm（75mm相当）

背景の色と面の構成も考えて撮ろう

散歩の途中でススキを撮ってみました。

ススキのように、細くて色も地味なものを主役にして撮るのは工夫が必要です。

背景がごちゃごちゃしていると主役が埋没するので、なるべく単純で、色が単一、かつ、主役とは対照的な背景になるようにします。

主役の色が地味なら、逆に、背景を鮮やかにしてみるのも効果的です。

このときは、空の青、雲の白、林の緑がうまく3等分されるような位置を探して写しました。

背景が色以外には目立たないように、適度にぼかすことも忘れずに。こうした風景は広角で撮りがちですが、背景をぼかすために、これはズームの望遠側で撮りました。工夫次第で平凡な風景もいい「絵」になります。



PENTAX K100D+タムロン18-250mm/F3.5-6.3

1/800 秒、F11

露出補正 -2/3

50 mm (75 mm相当)

全体を入れないほうが大きく見える

私が今住んでいる村には、かつて小学校が三校ありました。しかし、過疎化が進み、三つとも廃校になり、新しい校舎が別の場所に建てられました。

廃校になった三校のうち二つは多くの人の努力で再利用の道を見つけましたが、一つはついに取り壊されました。これは解体途中で撮った写真です。

まだ使える立派な木造校舎が、再利用を真剣に検討されないまま、補助金付きで壊されていく不条理と切なさを写真にこめたいと思い、しばし悩みました。

全部を写そうとすると、校舎の骨太な質感が出ません。かといって、近づいて撮ると、何を撮っているのか分かりません。

最終的に見つけたのがこの角度と間合いです。全体が収まらなくても、むしろ画面からはみ出た部分まで想像させることで、大きさを感じさせます。



KONICA MINOLTA DiIMAGE A200

1/800 秒、F3.2 ISO 50

露出補正 -1/3

7.20 mm (28 mm相当)

暗い場所ではISO感度を上げて撮る

昔の農家では、収穫を終えた後、脱穀機などをきれいに洗って、感謝の印としておはぎを供えたとか。これはそれを再現した光景です。

古い農家の土間ですから、明かりはほとんどありません。このように暗い場所で、フラッシュをたかずに撮影する場合、デジカメの「感度」を上げる方法があります。

フィルムの感度と同じISOの規格で表され、ISO 100、200、400……と、数字が大きくなるほど高感度になり、短いシャッターが切れますが、写真の粒子はどんどん荒れていきます。

粒子が荒れても、手ぶれでボケボケになるよりはマシですね。

通常は「オート」になっていますが、たいていのデジカメは、手動でも設定できます。画像のきれいさを優先してISO感度を低く抑えるか、手ぶれを防ぐためにISO感度を上げるか……余裕があれば、ISO感度を変えて何枚も撮っておき、後からゆっくりベストショットを選びましょう。

このサンプル写真は、ISO感度をあまり上げずに、粒子が荒れることを防いだショットです。1/8秒というスローシャッターですが、なんとか手ぶれせずに撮れました。



PENTAX K100D+タムロン18-250mm/F3.5-6.3

1/8 秒、F3.5、ISO 200

18 mm (27 mm相当)

オートブラケット使用で露出を変え、複数枚撮影

屋外の望遠撮影では手すりや立木を活用

休日に近くの公園を訪れたところ、「あきる野座」というグループが、農村歌舞伎をやっていたので、撮ってみました。

35mmフィルム換算で200mmを超える望遠が可能なズームレンズを搭載したデジカメは珍しいですが、望遠にすればするほど手ぶれしやすくなります。

しかし、私もそうですが、アマチュアカメラマンは、三脚を持ち歩く根性がなかなか持てませんよね。

ならば、手すりや電柱、立木など、支えになるものを積極的に活用しましょう。特に、手すりは最高の手ぶれ防止アイテムになります。

それにしても、観客席からフラッシュをたいて撮影している人が複数いたのには呆れました。舞台まで光が届くはずありません。迷惑な上に、電池の消耗を早めるだけです。



PENTAX K100D+タムロン18-250mm/F3.5-6.3

1/100 秒、F5.6、ISO 200

露出補正 -2/3

155 mm (232 mm相当)

明るい屋外でこそフラッシュを使う

屋内の人物撮影などでカメラの内蔵フラッシュを使うと、顔がテカテカになり、台なしになるという話は書きましたね。そもそもフラッシュを「オート」にしておくと、思わぬ場面で発光し、周囲の迷惑になります。フラッシュは「発光禁止」が基本だということを肝に銘じておいてください。実は、フラッシュは「明るい場所」でこそ威力を発揮するのです。この写真のように、構図に空を入れると、空が明るすぎて、隣のものが真っ黒になることがあります。こういうときにこそフラッシュを使いましょう。上はフラッシュなし、下はフラッシュを手動で「強制発光」させて撮ったものです。手動でフラッシュを強制発光させた後は、また「発光禁止」に戻すことを忘れずに！

